
Artemis ~月光の煌き~

高田 玄武

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

Artemis ～月光の煌き～

【NZコード】

NZ8395C

【作者名】

高田 玄武

【あらすじ】

戦乱の時代。盗人の少年は、月に映える少女の姿に魅入られる。少女は、一体何者なのか。・・・貴方は何者だと思いますか？

恒久の月の光の如く。

絹の羽衣を纏つた少女は野に立ち、白痴の様に銀色の櫛をなびかせ、唯、地を踏みしめ、きらびやかに舞っていた。

「お主は何故、舞うのか。」

彼女の姿を、丁度井の水を汲みに忍び込んだ盗人の少年が眼にして声を掛けた。

少年の声に驚き、彼女ははたと足を留め、彼を振り返る。

「お主は何故、其に於いて舞うのか。」

振り向いた銀髪の少女に、再度問掛ける。彼の眼には、少女の姿がそれほど楽しげに見えたのだ。

今宵は満月。月の光に照らされた少女は、ボロを纏つた少年を魅了するに十分過ぎる程の妖艶。

「クス。」

と少女は微笑む。

微笑んだ少女は、すぐに彼に答えた。

「そなたは、生きて地を踏むことを嬉しき」ととは思わぬかえ?」

少女の意外な答えに少年は、手の、拘ちかけた木桶を突き出して答える。

「・・・」の乱世に、生きることを苦難と思わぬ者がおるものか。見ろ、この一酌の井の水すら、ままならぬ。何を嬉しきと思えよつぞ。」

木桶の水は、満月を映してゆらりと揺れている。

「生きるが苦難か。其の様な物、水辺を行けば足る程あらう」

少女は尚も楽しげに微笑う。

「河原には死人が浮いて飲むに耐えぬ。腐臭は氣を病ませよ。口にするには値わない。」

「汝もヒトなれだ。口いきに出来ぬもあらづか。生きることより其が病むとは、如何いかがなものよ。」

「仕方あるまい。生きるとは其のようなものだ。・・・お主は何ぞ。見る限り、地の者とは合ひ見えぬが。」

少女は口の端を緩めると、纏つた羽衣をひらりと翻し、一度ぐるりと舞う。

「我もヒトなれだ。そなたと同じじや。地を踏むことも出来るしかしよつてほれ、舞つことも出来る。其れの何と幸せなことか。」

少女は尚も飛び撥ね、銀を翻し煌めく。

「・・・案じた。」この両の眼には、妖か物の怪の類に映えて仕方ない。お主、生まれは？」

少年は、汲んだ水を手にて、更に問う。少女は地についた足を軽やかに踏むと、一言放つ。

「 そなたの知らぬ場所じや。」

と、答えた彼女は、宙を仰ぐよつに月を見つめた。

「 俺の知らぬ場所？ 異国か？ 名は？」

「 名、か。 そづじやな、我の名は 月・・・うむ、
月詠じや。良い名であらへ。」

「 では、月詠。お主はこんな焼け野原で何をしていた。」

「 待て。我が名乗ったのなひま、そなたも名乗るのが道理である。そなたの名は？」

「 ・・・俺の名は 」

とまで答えて、少年はふと気付く。少女の舞いは見るに奪われるほど美しかつたが、辺りには人の氣配一つ無い。月の光のみが、元は集落であつたであろう、その焼け出された野原を映し出している。

「 どつした？ そなたの名は？」

少年はふと脳裏に過つた言葉を振りほどき、答えた。

「俺は、助六だ。」

少年の名を聞いた少女は、舐めるよつて少年を見つめると、口にした。

「助六か。うむ、良い名じや。して助六、そなた、我に何をしていたかを問うたな？」

少女は柔らかに微笑むと、少年に背を向け、また月を見上げた。

「月を見ておつたやも知れぬな。」

「やも知れぬ？ 知れぬとは、如何なことだ？」

少年は、少女の不思議な答へこ、身を乗り出して更に問う。すると少女は振り向き、答えた。

「クス。そなた、生きる」とを苦難と申したのである。では、何故に生きるか。」

少年は、少女の笑みにぐぐりと肝を冷やし、一歩退く。

「畏れなくとも。そなたを捕つて食おうとも思わぬ。我は、そなたが生きる理由を識りたい。生きるとは、如何よつなことか。」

少年は唾を飲み、眼の前の少女に魅入られたかの如く、動けずに居た。

「お主、^{まこと}真にヒトか？」

少年は震える躰をやつとのこと抑え、発したが、少女はクスリと微笑い、少年を見据えたまま微動だにしない。

「月を そなたの眼は、この満円の月を、どのように映すであらうな。」

微かに表情を曇らせた少女の姿に、少年は恐怖とも違う、なんとも言えぬ感情に心を奪われる。

「・・・せつとて、我は 。。」

瞬間、つむじ風が吹き抜ける。

少年は強い風に顔を背け、一瞬視界を取られる。

「 月詠つ！？」

風が止み、次に少年が少女を探した時には、其処に彼女の姿を見つけることは出来なかつた。

満円の月の光が如く。

煌めく恒久の月の光の下、少女の面影を探し、少年は立ち尽くす。

(後書き)

少女は何を見、何を考えていたのでしょうか。
作者自身の中でも、少女が何者でどこで消えたのか、はっきりとした答えが見えないまま完結してしまいました。
もし、皆様の頭の中で、少女の姿が見えたのでしたら、皆様はどういうに思われるか、考えて下さるととても嬉しく思います。
玄武でした。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8395c/>

Artemis ~月光の煌き~

2010年10月11日14時31分発行